

# 15年に及ぶ技術の蓄積と信頼で 企業の最後の砦となる

アドバンスデザイン株式会社



代表取締役社長 本田正氏

## 重要なのは データそのものだ

この3月に協会主催で行ったデータ復旧の勉強会には、関東圏内だけでの募集だったが満席の25人の会員に集まっていた。意欲満々、盛況であった。そこで指導いただいたのが川崎に本社を置くアドバンスデザインだ。

「データ復旧ってなに?という方もまだまだ多いです。長くやってきましたがまだまだご存じない。諦めてしまっている方が多いんです」

本田社長率いる同社は、国内千社以上の取引先を持ち、ISO 9001:2008を

取得。自社でデータ復旧できず、他業者がデータの復旧に成功した場合は、5万円を支払うという自信を誇る。

「重要なのはデータそのものであって、コンピュータやハードディスクが欲しい訳ではないんですよね」

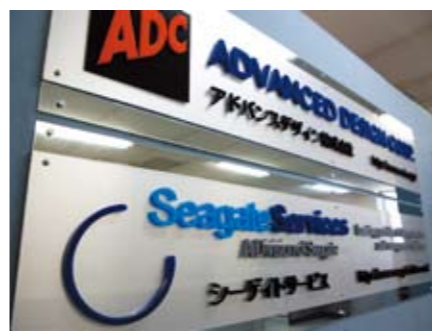
デジタルデータは年々増える。これだけでなく企業も立ち行かなくなるし、個人でも大切なデータはたくさんある。2000年頃からパソコンの価格はかなり下がってきており、性能は格段に進歩した。信頼性は遥かに上がったが、失う量も増えているのが実情だ。

その状況下で求められているのはデータそのものと、その安全性である。各企業が独自に作ったデータは一度失えば二度と作れない。そのように大事なものであるのに大事にされていないのではないかと、社長は語る。備えと

して例えばバックアップも満足に行っていない。したとしてもヒューマンエラーもある。

## 人が関与する限り データエラーは なくならない

十数年前のことだ。社長は命より大切なデータを誤って消してしまった。当時日本にこの業態はなく、懸命に探した結果、海外で20社を見つける。自らのデータを救うため実際に見て回った結果得られたのは、本当にできる企業は1割しかないという事実だ。ピラミッドに例えて底辺に属する企業は、



本社のエントランスにはシーゲイトサービスの看板が掲げられている。信頼の証だ。

その内の一社、後に提携先となるカナダの企業トップと話した時、「技術は進歩し続けるのでデータの危険性はなくなっていくのではないかと? データリカバリーの仕事もなくなっていくのではないかと?」と問うた本田氏に対し、「動くものである以上、いつか壊れる。人が関与する限りヒューマンエラーも絶対消えない。だからこの仕事もなくなると返されたと言う。HDDは機械なので壊れるかどうかではなく、いつ壊れるか、なのだ。時間の問題である。」

このときの経験が契機となり「必ず自分と同じ境遇のヒトがいるはずだ。

Photo:TOMOYA SUZUKI

役に立ちたい」との熱意で起業されたのである。

修理にあたっては、「モノを見なすして修理代金は決められませんので、初期診断を無料にし、その上で正確な見積もりをお出しするようにしているのです」ということで、87.7%に達する満足度をユーザーから得ている。

## 経験と技術、そして…

今では100社ほどに増えたこの業界だが、「一言でデータリカバリーと言ってもかつてのアメリカと同じ、やはりトップクラスは一割程度だろうと言う。むしろ、小さな業態が不要だというのはなく、ケースバイケースの選択になる」といふことだ。

同社に修理として持ち込まれる比率は、機械的故障が40%、人的ミスが30%である。ハードが直せる企業として有数の同社では、その半数近くが物理障害だ。他社では断られるケースが多いのであるが、アドバンスデザインはどこが異なるのか? その差は技術力と長年に渡る経験の蓄積にある。そして圧倒的な部品の在庫も大きな要因だ。原因を突き止めても部品がなくては直しようがない。例えば昔使われていたメディアをいざ読み出そうとした際、破損していたらどうする? 直せる技術者も部品もないのだ。15年前の部品など、もう市場には存在しない。よそになくてもここにはあるというパーツが、ここにはある。アドバンスデザインのような企業がなければお手

上げになってしまう。

「やはり経験とノウハウの積み重ねですね。5年前と今のハードディスクは形が同じでも中身は別物なんです。そこを理解できないとためです」

汎用ソフトでは足りないもので、使用するソフトは症状に合わせてその都度自ら作るのだと言う。その独自ソフトは数千にも及ぶ。この蓄積こそが同社の強みの基盤になっている。

「ほぼ毎日くり作りましますね」というから驚くではないか。

「Linuxに関しては右に出るものがない」「HDDでは自分がトッパだ」という各分野に秀でた人間が幾人もいるからこそオールマイティになる。プロ集団なのである。

同社が使用し、販売もするRStudioは非常によくてきたソフトで、少しの知識があれば使えるはずだ。

「ソフトを駆使することによって、あまり知識がなくとも修理できる場合があります。本来はユーザー自らに使用していただきたいソフトなのです」

「皆さんの一般ユーザーに使っていただきたいのだが、プロであればより深いレベルで使える。知れば知るほど奥の深いソフトだ。事業者向けに「テクニシャンライセンス」もある。業界内での評判もよく、LinuxとMACにも対応し、RAIDも修復可能とマルチバリエーションを誇る。まさに「世界中のプロが認めた」ソフトなのである。興味を持たれた方はお試し版で試してみてください。

## 技術の厚みと幅を広げる



お試し版ダウンロードページ  
<http://www.a-d.co.jp/r-studio/download/check.html>

「こんないい仕事していてほんとよかったな」と10年前は感じた。数えきれない感謝も受けた。しかし近頃では業界全体のイメージが悪化してきているのではないかと懸念もされている。今はデータリカバリーの価値自体を論ぜず、金銭的な面だけで捉えられてしまいう傾向があるようで、そうなるに辛いやいや言われざるを得ない。サポート業界でも同じだが、様々な規模の企業が林立し競い合っている状況は、まだ黎明期にあるということだろう。この先どのように収斂されていくのか。

「データリカバリー最後の砦として、同社が培ってきた技術の厚みがあります。要求されるのは間違いなく、

### ■企業 DATA ■

アドバンスデザイン株式会社  
所在地: 神奈川県川崎市川崎区浅野町4番13号  
創業: 1995年6月  
データ復旧サービス、データ消去サービスおよびデータ消去機器、データ復旧ソフトの販売  
<http://www.a-d.co.jp/index.html>



データスウィーパーの管理画面。履歴が追える機能は重要。



左はデータ消去ソフトDataSweeper Handy。消去方式はすべてを網羅したと言っている13種も用意した。USBデバイスで提供される。消去ログも保存でき、データ消去証明書まで作成できる非常に使い勝手の良い製品だ。中は磁気データ消去装置MagWiper MW-30000。ノートパソコンをそのまま入れ、磁気データを消す。それほど大きな消去領域を確保しており、作業効率もアップする。また、フロント部に電源キーを設け、管理者以外の不正利用を防ぐ設計となっている。右は複数のHDDを最大12台まで一度にデータ消去もしくはデータコピーができるDataSweeper&DuplicatorDSD-1200。

